

ミライロと関鑑



学生スタッフ NPO 法人学生ネットワークWAN

取材 イデアパートナーズ株式会社
代表取締役
井手修身さん

■今月の取材先 イデアパートナーズ株式会社 とは？
集客・交流・サービスの領域において、顧客視点のマーケティングから、企業や地域の価値創出を行う。組織の活性化や人材活用という観点で、企業や地域の価値を創出し、地域主導の地域に根ざした自立型ビジネスを実現している。

「『フィールド九州』で、ゼロから1を創りたい」

起業されたきっかけを教えてください。

私の選択にはいつも、ルーツがあります。皆さんも進学や就職にあたって、選択の機会があったと思います。その選択には、判断基準がありますよね。そして、その判断基準にも何らかのきっかけがあるはずなのです。

私の場合は、大学時代に入っていた人形劇サークルでした。建築学科だったのですが、サークルで舞台監督や演出家、脚本家などをしている間に、**自分が本当にやりたい事は、「ゼロから1をつくり出すこと」や、「自分がワクワクできること」、「チームで何か作ること」だと気がついた**のです。だとしたらそのような仕事がしたいと思ったのですが、同時に、建築学科の延長にその仕事は無いと感じるようになりました。当時、インターネットは今ほど普及していなかったので、就職活動をするにも自分なりに情報を見つけるしかありませんでした。そんな中、『リクルートの奇跡』という一冊の本に出会いました。当時のリクルートは、今でいうベンチャー企業のような会社だったのですが、その本を読んだのをきっかけに、そこで働きたいと思ったのです。そうして働き始めたのですが、入社3年目で政財界に大激震を与えたリクルート事件が起きました。私が担当していた不動産のプロジェクトはストップしてしまい社内失

業状態に、会社の中で半年間仕事ができない状態になったのです。でも、これからどうしよう、となった時に先輩が、「給料も時間ももらえてラッキーやん。この機会を存分に使おう」と声をかけてくれたのです。そこで私は様々な企業の社長にヒアリングをして、多くの人と接点を自分でつくるようになりました。**一度失ったからこそ、「仕事は、自分で生み出せる可能性があるものだ」と分かった**のです。逆転の発想だったと言えるのかもしれませんが。

地域に根付いたビジネスをはじめたのは、なぜですか？

私は熊本の南阿蘇村出身で、次第に地域のことをやりたいなと思うようになりました。そこで、入社して10年が経った頃に新規事業開発部を立ち上げることにしました。リクルートの持つ人材など様々なものを使って地域の課題を解決する、という地域活性事業です。しかしリクルートでは「期待できる利益は見込めない」と5年で廃部になってしまい、20人くらいいたメンバーがバラバラの部署に異動することになりました。私は当時、福岡で九州支社の責任者をしていたのですが、**「自分がやりたいことや、自分に求められることって何だろう」と考えた時に「自分の会社を作って、地域活性の仕事をビジネスとしてやっ**

てみたい」と思ったのです。そして14年前に起こしたのが、アイデアパートナーズ株式会社です。

私たちの仕事は、地域の資源を活用して地域に根付いた経済活動を行うことができる仕組みをつくることです。様々な自治体や企業と組んで「新しいこと」を生み出し、経済活動を行う仕組みをつくります。物販や観光、宿泊、小売事業、人材誘致など様々な手段があります。最近よく耳にする、リノベーションした空き家を活用する活動も行いました。そのようなことを企画して実際に行い、地域間競争に勝ち抜ける地方を創生しています。また、フィールドを九州に置くことにこだわっています。交通の便がいいなどの理由から福岡に拠点を置いています。どうせなら東京ではなく、九州にあって九州のことを仕事にする「フィールド九州」の会社をやりたいと思っています。

9年前にNPO法人を立ち上げて、福岡のまちを楽しむ「屋台きっぷ」、「福岡体験ハコチケット」の商品を開発しました。また、九州の猪、鹿肉「ジビエ」料理の飲食店「情熱の千鳥足カルネ」を現在経営しています。

地域の課題は何だと思いますか？

様々な問題がありますが、やはり一番大きな問題は人口減少と高齢化だと思います。今の学生が大人になった時には、働き手が減り、日本の経済活動が機能しなくなってしまうことが予想されているのです。どの自治体も人口問題対策で総合戦略を策定しました。第一に新たな雇用を生み出し、第二にリターンやIターンなどの人の流れを作ります。そして第三、第四に、新しい世代が産出し子供を育てやすい環境や安心安全なまちづくりを行います。私たちがフォーカスしているのは、第一・二戦略の「新たな雇用を生み出し、地方への人の流れをつくる」ということです。経済活動を生み出すことで、人の流れを作っています。しかし、人口減少と高齢化という課題は解決できていないのが現状です。日本経済が機能していくひとつの方策として、外国人材の受け入れがあります。外国人材を労働力としてではなく、生活者として受け入れることが不可欠です。そこで現在、九州でいち早く外国人を受け入れることができる仕組みを作る活動も始めています。

まちづくりに大切なことは何ですか？

観光のまちづくりには、多様な人々の関わりが不可欠です。



行政や関連の事業者もちろん必要ですが、今まで観光に全く関係ないと思われていた住民や団体こそ、観光のまちづくりにとって、無くてはならない存在です。なぜかという、住みたいと思うのは住民自身だからです。住んで良し、訪れて良しのまちづくりには、その住民たちの誇り（シビックプライド）無しには成り立ちません。主役はあくまで地域の方々と、私たちはサポーターです。地域の人と活動する時には必ず、自分たちが一番やりたいことに気づき、計画してもらうようにしています。私たちは、何かやってみたいという「場」（プラットフォーム）をつくるだけです。老若男女を問わず多様な人が活躍できるような「場」づくりを心がけています。

行政と観光事業者と住民、この3つをつなぎ合わせる事が私たちの役割です。

企画運営されている福岡バルウォークは、2018年11月に15回目を迎えられましたね。イベントを成功させる為に心がけていることはありますか？

もともと、バルウォークというイベントは北海道函館市で行われていて、それを是非福岡でやりたいとスタッフの一人が言いました。企画する時に大切にしているのは、自分自身が行きたいと思うかどうか。それは、会社全体でも同じで、スタッフ一人ひとりの感性を大切にしています。徹底しているのは、「やり方をパクるな、本物を徹底的に模倣しなさい」ということ。3年ほどで終わってしまうイベントと、ずっと続くイベントには、決定的な差があります。それは、継続できる本質を理解しているかどうか、ということです。バルのイベントで言えば、主役が飲食店だということ。飲食店が自主性を持っていれば、バルに参加するお店が切磋琢磨して、お客様をもてなしてくれます。私たち事務局はそれをサポートする役割です。

人と人を繋ぐアイデアパートナーズは、市民一人ひとりが地域に誇りを持った地域活性化事業にとって、欠かせない存在だと感じました。自分の感性や直感を大切にして、地域に貢献できるような仕事ができる大人になりたいです。井手代表、貴重なお話をありがとうございました！





■NPO法人学生ネットワークWAN とは？
設立16年目を迎える学生主体のNPO。「学生だから～できない」「地方だから～できない」を変えるべく全国19地域の情報発信支援や、地域の関係人口をつくるコンテンツ企画運営をしている。私たちの運営するサイト「ガクログ」もぜひCHECK!!してください！

<http://www.gakulog.net/>

